

市民がつくる地域情報誌

創刊0号

2017.11

ととこ 山陽小野田

tottoko
sanyo-onoda

山陽小野田市を
深掘り!

この情報誌は、山陽小野田市の
「現在」を深掘りし、後世に
伝えていくため、図書館
創発会議のメンバーが
地域に出かけ取材した
ものを中心に編集
したものです。

CONTENTS

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 小野田線に乗ってみた | 7. 海のバン屋さん バン・デ・モルデ |
| 2. 「荒川製壺所」荒川有三さん | 8. ポエム散策 |
| 3. このまちのここが好き! | 9. 厚狭地区の句碑をめぐって |
| 4. フォトライブラリー | 10. 「トロアメゾン」を訪ねて |
| 5. 市内唯一の製陶所「松井製陶所」 | 11. 「詩（ポエム）カフェ」 |
| 6. 来嶋又兵衛ゆかりの地をたずねて | 12. 市内地図 |



小野田線に乗ってみた

日本で現役の「クモハ42形電車」が走る小野田線

梅雨の晴れ間に、小野田線の小野田駅から雀田駅まで乗ってみた。六つの駅(7・1キロ)を16分で走る。短いから乗車運賃も、210円とすごく安い。ほんとうは雀田からは浜河内をへて長門本山まで、あと2・3キロ、5分の支線があり、これにも乗ってみたかった。この支線には、日本で現役最古(昭和8年製)の「クモハ42形電車」が走っている。この歴史的遺産は早朝に2本、夕方に1本しか走らない。事前に接続を確かめておきたい。

小野田線の駅間で、いちばん短いのは、南小野田と小野田港の間。わずか0・6キロ、時間にして2分弱だった。全国の鉄道の駅間を見ても、最短ではないか、という人は多い。残念ながら全国には駅間が0・5キロ以下というのが、いくつかある。けれども小野田線のように、3分以下の短い区間が連続しているローカル線は、あまりないだろう。

乗った印象は、ほとんどバスに近い。小野田駅以外は無人駅なので、駅に着くと運転士さんがホーム側のドアをあけて、降りる客から切符をうけとる。つまりワンマン列車である。これだけ短い区間なのに、山の中を走ったり、田んぼのそばを走ったり、川の縁を走ったり、鉄橋もわたるし、高架橋もある。



▲小野田セメント内前の踏切り



▲歴史遺産「とくり窯」も真近に見える



▲こんな「山中」も通っていく



▲往時をしのばせる陸橋も残る

次から次へと変わっていく窓の外の情景

日本のセメント産業発祥の地である小野田セメントの会社の正面入り口を通ったりもする。近代洋式セメント製造法を伝える唯一の遺構であるセメント焼成用竖窯「とくり窯」も間近に見える。ローカル線はふつう、のんびりとした旅情が売りだが、この線は逆だ。窓の外の情景が短い時間に、次から次へと変わっていく。しかも沿線には、歴史的遺産が数多くある。それを事前に調べておくと、楽しみが倍加するだろう。



▲小野田線 雀田駅

知ってますか？

本の中の小野田線－長門本山駅－

『汽車旅ベストコース』（種村直樹著/中央書院 1989年）で長門本山駅が「海に突っ込みそうな終端」として紹介されています。「雀田から2.3キロ、二駅間を、ぶどう色のレトロ電車が一両で行き来している。長門本山駅の車止めの先は急な坂になり、海に突っ込みそうな格好。その先に青い海と、遠く九州が望める。片面ホームの無人駅。」

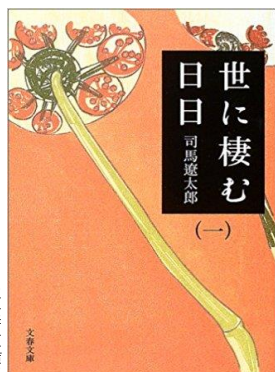
※本の中に出てくる「山陽小野田」を探しています。ご存知の方は、中央図書館 TEL.0836-83-2870までご連絡下さい。



代々つづく畳職人の家に生まれた荒川さん

日本で唯一、手縫いの伝統技法「掛け縫い」のできる畳職人がいます。それは厚狭にお住いの、荒川製畳所の荒川有三さん。荒川さんはお父様の源一さんとともに、父子二代で『日本の名工』に選ばれた畳工です。

—— 私の生まれは代々つづく畳職人の家です。明治初年ごろ兵庫県ではじめた荒川畳店は祖父の代に浅草に移り、東京大空襲で焼け出されたのち、昭和16年、父の代に厚狭に移転してきます。ここに軍の指定工場があったからです。昭和25年、畳材料の統制が終わった年に私は生まれました。若いころは本もよく読みました。司馬遼太郎の歴史物が好きで、愛読書は高杉晋作の出てくる『世に棲む日々』です。あと、洋物ではジュール・ヴェルヌの『海底二万哩』も好きな一冊です。



(文春文庫)

◀『世に棲む日々』／司馬遼太郎 著

日本で唯一の伝統技法を受け継ぐ畳職人

三代目の父・源一が昭和50年代に、私が平成25年に、“掛け縫い”の技法で畳を編む唯一の職人として「現代の名工」に選ばれました。“掛け縫い”は畳床の最高峰ですが、それだけに文化財保護のための修復以外に需要がなく、気が付けばその技法を持つ職人は私一人になっていました。これではいけないと、毎年正月に全国から職人有志をまねき、製造技法を伝授しています。

畳職人は確実に減っていますが、手縫いで畳を作る職人はなおさらです。桂離宮の昭和の大修理のとき、畳替えがあり、新畳が機械縫いだったにもかかわらず、掛け縫いの13通りで入れ変えたと報道され、記録にも残りました。このような誤りがあってはならないと奮起したのが、継承を決意したきっかけでした。



▲荒川さんの技術を継承する甥っ子の高橋裕一郎さん

ひと口に掛け縫いといっても、職人それぞれの個性が出ます。あるとき、三菱の岩崎邸を訪ねたおりに、父の話を思い出し、お願いして畳をはぐらせてもらいました。畳裏にはまぎれもなく、祖父の手がありました。私は祖父の仕事是直接見ていません。でもそこに、父から聞いた祖父の仕事の跡がはっきりあるのを目にして、胸が熱くなったのを覚えています。

腕のある職人が安心して暮らせる社会を願って

文化が廃るということは、それを継承する仕事や材料や道具が、その道具を作る伝統がなくなるということです。一口に文化財保護と言いますが、そのためには行政から補助金をいただいても意味がありません。それよりも、「掛け縫いでやれ」とか「備後表にしろ」とかと指定してほしいです。そうすれば職人は残ります。技術は残ります。腕のある職人が安心して暮らせる社会になればと願っています。

ご多忙な畳作りの合間を縫って、お話を伺いました。作業所には荒川さんの技術を継承する、甥の高橋裕一郎さんの姿もありました。さいしょはぎごちなかった取材でしたが、慣れてくうちに打ち解けて多くのことをお話いただき、取って置きの思い出話も問わず語りにお聴かせくださいました。

(文・写真/香川真澄)



▲荒川さんと備後表(びんごおもて)

このまちのここが好き！

～ペコリーヌさん（FMサンサンきらら・パーソナリティ） に聞いてみた～

インタビュー：山本安彦（H29.6.16、中央図書館にて）

山 こんにちは。今日はこれから、ペコリーヌさんにこの町の魅力をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。ペコリーヌさんは、この町のご出身ではないですね。この町に来て何年になります？

ペ 出身は千葉県の柏市です。こちらに来てもう20年と・・・、あら、あぶないあぶない、年齢が・・・（笑）。

山 その当時、この町の印象はどうでしたか？



ペ 東京から新幹線に乗り、小郡で乗り換えて、当時はまだ新幹線の駅がなかったので、在来線の駅に降り立ったら、うす暗闇にそびえ立つ大きな寝太郎さまの像が。サンタクロース？とちょっとびっくりしましたが、それが寝太郎さまの像でした。途中の山々がみんなどれも丸くてかわいくて、古墳がたくさんあるのかと思いました。

山 新幹線に乗って移動していると、山の景色がだんだん違ってきますもんね。こちらに来られて、一番驚かれたことは？

ペ そうですね、方言でしょうか。義母から「シイタケ、かして」と言われた時、持っていたシイタケを渡したら大笑いされました。「かす」というのは、「水にひたす」という意味なんですね。その他にも「届く」の意味で「たう」など、わからない言葉はノートにメモして必死に覚えめました。

山 地元の人たちはどこでも通用する言葉と思って普通に使っていますが、他所の人にはびっくりなんでしょうね。

ペ 慣れるのにちょっと時間がかかりましたが、山口弁のかわいらしい響きがとても好きです。

山 ところで、つい気安く「ペコリーヌさん」と呼んでしまうのですが、ペコリーヌさんの名前の由来は？

ペ 昔、不二家のペコちゃんに似ていると言われ、ニックネームがずっとペコちゃんだったんです。そこから友人が、ラジオ用につけてくれました。

山 なんとなん、そんなことかなとは思っていました。でも、可愛い名前ですね。この町に来て、一番良かったと思うことは何ですか？

ペ やはり、町の人たちがみんな温かい、ということでしょうか。都会のような賑やかさはないけれど、海も山も川も温泉も近くて、すてきな公園もたくさんある。酒蔵や造り醤油屋さんがあるということは、水もいいのでは。子育てするにも絶好の町だと思います。

山 山口県は、少し車で走れば瀬戸内海や日本海、ですからね。おすすめのスポットをあげるとしたら、どこになりますか？

ペ 厚狭の旧山陽道は参勤交代の行列が通った道。そんな歴史を感じられる場所や、今の時期ですと、物見山総合公園のショウブが見事です。それから、寝太郎公園夢広場のアジサイもきれいです。どちらもあまり知られていないのがもったいなくて。ぜひみなさんに見てほしいです。縄地ヶ鼻公園のスイセンも素晴らしいですね。ステキな夕日スポットもあちこちにありまして、夏から秋には花火大会も楽しみです。

山 お好きな食べ物は何？

ペ こちらに来て、一番驚いた食べ物が「瓦そば」。熱い瓦の上に茶そばが乗っていてビックリ！食べたらいきくてまたビックリ！地元のお食事処では、厚狭駅前の「やよい」や「二反田」が気軽におすすめ。家庭的でボリュームがあっておいしくて、しかもリーズナブル。「やよい」ではジャズ・ライブもやっていますよ。佐々木書店ブックカフェにもよく行きます。また、「あん庵（元わくわく庵）」も大人気で、予約がなかなか取れないほど。和菓子のお店では、「もりなが松陰堂」の玄米おはぎがおいしいですね。

山 「もりなが松陰堂」には何回か行ったことがあります。ライブをしているお店、意外と多いですね。

ペ そうなんですよ。港町の「WAKAYAMA」でもライブをやっていますし、落語会も時々あるようです。あそこのカレーは絶品ですね。厚狭のパン屋さんでは、元消防士の方が始められた「アップルベリー」というお店がおすすめ。それと、焼野海岸にある「パン・デ・モルデ」も...食いしん坊なのがばれちゃいますね(笑)



▲山陽小野田・厚狭のパン屋さん「アップルベリー」▲

山 「海のパン屋さん」ですね。食べ物の話ばかりですが、読んでほしい本、あるいはこれまで一番感動した本があったら教えてください。

ペ 『みどりのゆび』かな。それから『アルケミスト』。中勘助も好きです。

山 『みどりのゆび』の作者はモーリス・ドリュオン。それ、昔読んで知っています。世界中のどんな場所にでも花を咲かせることができる「みどりのゆび」を持った男の子の物語でしたね。岩波書店刊の児童書。

ペ はい、とても美しい物語です。『アルケミスト』の作者は、パウロ・コエーリョという人。エジプトのピラミッドに行けば隠された宝物を見つけられる、という夢を見た少年の冒険物語。今は角川書店から文庫も出ています。この2冊の本は、強く印象に残っています。



(角川書店)

パウロ・コエーリョ
山川 敏夫・山川 亜希子 訳



(岩波少年文庫)

モーリス・ドリュオン 著
安東次男 訳

山 FM局のパーソナリティをされているので、音楽にも詳しいと思いますが、おすすめの曲があれば教えてください。

ペ ラジオ局に勤めているといっても、機械の操作は実は苦手なんです。パーソナリティは最初、トークだけでいいからということで引き受けたのですが、今ではミキシングやワンマン放送もこなせるようになりました。音楽はさほど詳しくはありませんが、お気に入りの曲はWHAM! の「FREEDOM」かな。初来日の武道館で、アリーナ最前列で聴いた時の感動は忘れられません。それから、クロアチアのピアニストMAKSIMの「NEW WORLD CONCERTO」など、クロスオーバーな楽曲はどれを聴いても心に響きます。このまちの自慢、ということでもうひとつ。山陽小野田市というこの小さな町にコミュニティラジオ局があり、スタジオがふたつもあるというのはステキですよ。

山 一つは知っているけど、もう一つは…。

ペ 厚狭地区複合施設の2階にあるんですよ。放送室をお借りしている感じですが(笑)。山陽スタジオからは週1で放送しています。

山 え一つ、知りませんでした！この町には、知られざる魅力がもっともっとありそうですね。

ペ はい、FMサンサンきららからも、これからどんどん発信していきたいと思っています。

山 期待しています。今日は、どうもありがとうございました。

フォトライブラリー

「花の海」にて (山陽小野田市植生3392)



写真家／友田 恭太(ともだ・きょうた)

【プロフィール】山陽小野田市在住

2010年 デザイナーとして独立

2012年 独学にて写真を学びプロカメラマンへと転身

2015年 Jリーグオフィシャルカメラマンとして山口県内の公式戦の撮影を担当。

現在に至る。

モデル／万木 麻莉(かずき・まり)

【プロフィール】山陽小野田市在住



4代目社長 松井 智さん

硫酸瓶の伝統を受け継いで

山陽小野田市は、ご存知のようにセメントや石油コンビナート、化学工業などがある工業都市です。市内に「セメント町」「硫酸町」の町名も残っています。小野田の硫酸瓶は有名ですね。以前は30余りの製陶工場があったようです。ところが、今は一軒が残っているのみになりました。その製陶工場が松井製陶所です。現在の社長さんは創業(1905年)してから4代目の松井智さん(58才)です。

小野田の製陶業の歴史についておたずねしました。小野田で作られたセメントの材料は石灰75%と粘土25%なのだそうです。石灰は美祢、粘土は小野田で採掘されました。小野田の良質な粘土は吸水性はあっても水漏れしないという特異な性質があります。

鉄分が多く耐酸性もあったことから硫酸を入れておくことができました。今では酒、酢、醤油、焼酎などの食品を入れると、適度に吸収されるために中の食品がまろやかな味になると評価されているようです。硫酸瓶の生産が終わると次々と製陶工場は廃業となりましたが、松井製陶所はその後も蛸壺を作ったり、45年ほど前からは梅干の壺を作ったりして生き延びてきました。小野田の粘土を使った確かな技術が受け継がれているらんですね。



◀ 山陽小野田市にも小さい硫酸瓶のついでる信号機

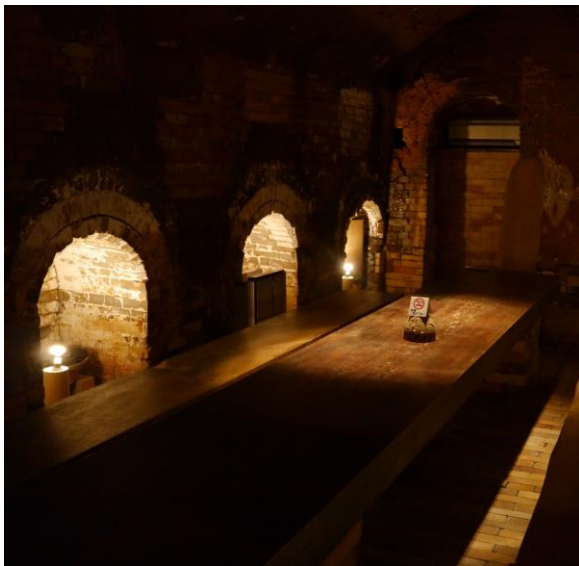
平成8年に現在の小野田橋が整備された際に建てられた硫酸瓶のモニュメント
(山陽小野田観光協会HPより)

小野田産粘土の特性を生かした製品づくり

工場での作業を拝見すると障害者の方が4名、とても家庭的な雰囲気、長い方は35年も働いておられるとのこと。工場内の古い窯はムードあふれる小ホールにリニューアルされていて、ここでコンサートが開かれたこともあるそうです。



▲作業中のようす▲



▲コンサートも開かれるリニューアルされた工場内の古い窯



◀梅干しの壺

社長の松井さんの次なる企画はミニチュアサイズの硫酸瓶の商品化です。すてきな企画ですね。ぜひとも小野田銘菓の「せめんだる」と一緒に遠方にいる友人に手土産にして届けてあげたいと思いました。本当に完成が待ち遠しいです。製陶所では陶芸体験も受け付けています。興味のある方は工場を訪れてみませんか。
(文:まっし 写真:田中 信)

2018年は明治維新150年

来嶋又兵衛 ゆかりの地をたずねて

激動する幕末、長州藩が日本の歴史の表舞台に登場するきっかけとなったのは、京都における「禁門の変」でした。幕府はそれを口実に全国の藩を動員し、二度にわたって長州征伐を目論むのです。ところが征伐どころか、15万の軍勢が4千人余の奇兵隊・諸隊に翻弄され、撤退する羽目に追い込まれました。幕府の威信は地に落ち、一気に倒壊の道をすすむことになるのです。

来嶋又兵衛 誕生之地

山陽小野田観光協会

時代を見据える目、実行力をもつ男 来嶋又兵衛

来嶋又兵衛は、高杉晋作が奇兵隊を創るや、呼応して即座に、自らも遊撃隊を組織しています。それは彼が、時代の発展方向が見える、実行力のある人物であったことを示しています。彼は、今の小野田駅近くの高須(長門国厚狹郡西高泊村)に生まれました。無給通組の下士・喜多村政倫の次男として、18歳で来嶋家に養子にいくまで、多感な青少年時代をすごしています。彼のひととしての基本は、高須の地で培われたことを、重くみる必要があります。「来嶋会」の野村玉世さんは、高須は水がよく井戸や池が多く、農業とともに酒造りの家があったと語っています。商業流通にともなう、人や情報の行き来が盛んだったことをうかがわせます。



▲うちにも井戸が残っていると野村さん

来嶋又兵衛の思い、受け継ぐ「来嶋会」

高須の厳島神社の境内に、「来嶋又兵衛生誕地」の碑が建っています。実際に生まれた家は、神社の北側150メートルの地にあったとされ、現在は田んぼとなったあぜに、「喜多村家の跡地」の碑が建っています。分かりにくいですが、住人に在り場所を聞くと、親切に案内してくれます。



▲高泊のバス停そばに厳島神社があり、そこに又兵衛生誕地の碑が建っている

地元の人たちは、来嶋又兵衛の事跡を顕彰するために、碑を建て守ってきました。「来嶋会」も、その思いをしっかりと受け継いでいこうと、20年前から婦人部の集まりの名称を変えて活動しているのです。



▲又兵衛が生まれた家はすでになく、その跡地に建つ 碑を示す農業者のNさん



▲又兵衛生誕地の碑

(文・写真:田中 信)

海のパン屋さん

パン・デ・モルデ *-Pan de molde-*

山陽小野田市の名所の一つ、竜王山をバックにきららビーチが整備されました。それから、ほどなくして、平成17年、「夕陽100選」にも選ばれているその海岸に「海のパン屋さんパン・デ・モルデ」がオープンしました。



営業時間/7:30~18:00
定休日/日・月曜日
TEL/0836-89-0618

物語に出てくるパン屋さんのよう



▲ 店内のようす

開店時間になると、お客さんが次々と焼きたてのパンを買いに来られます。オーナーの上田さんは、たった一人で、なんと夜中から！お店のパンを仕込み始めるのだそうです。まるで「魔女の宅急便」に出てくるパン屋さんのよう。とってもたっくましい方です。さっそく、上田さんにお店の由来をお聞きました。



オーナー上田さんのこだわりと意外な過去

「パン・デ・モルデ」はスペイン語で食パンの意味。スペインはきららビーチのコンセプトなので、スペイン語にされたとか(近くには、スペイン料理のレストランのソル・ポニエンテ、お店の隣にはガラス未来館があります)。では、なぜ食パンなのでしょう？これには、お店のオーナー上田さんのこだわりと意外な過去が秘められているのです。



志賀高原から受け継がれる、パン作りの技術



◀ オーナー
上田さん

上田さんは山口市出身で、長野の信州大学に進学して繊維の研究をしました。大阪の企業に就職し、高分子の研究をしました。しかし、調理師の道もあきらめきれず、辻学園調理師専門学校に入学。卒業後、学生時代にスキーや登山で親しんだ、長野県志賀高原の「横手山頂ヒュッテ」のベーカリーで5年間パン作りに励みました。このベーカリーは、日本一標高の高いパン屋さんで、看板メニューは、そう、食パンです。食パンとアンパンに使われる手作りのあんこは、志賀高原からここ小野田「パン・デ・モルデ」で上田さんに受け継がれているのだそうです。



他にも、デニッシュやフランスパン、ぶどうパン、サンドイッチなど、オリジナルのパンの種類も豊富です。お客様の要望にこたえて、パンには自然な食材が使われています。

お店のこれから

店内のイートインで、パンにドリンクとサラダをセットにした軽食に力を入れています。現在、地中海レストラン「La・Tierra」のスープとコラボしたメニューも好評です。きらら海岸に来られた時はぜひ立ち寄ってみてください。

(文: まっし 写真: 田中 信)

『ポエム散策』

取材日/H29 7 12

所在地/山陽小野田市
新沖1-7516-23

新沖緑地公園編

橘 高 栄 一

俳句という詩の力① 市の歴史と繋ぐ

前日の雨と打って変わった抜けるような青空。庭園を一周する。遊歩道は時折、木洩れ陽の緑のトンネルを抜ける。みずみずしい緑が実に美しい。

【二つの歌碑と建立の趣旨】庭園の方向に歩みを進める時、遊歩道に向かって、(左)森田峠の句碑 (正面)西村草生の句碑 (右)由来記の石板が目にと留まる。



石板の記事を以下に採録
しご案内と致します。



<句の解釈・所感>

(1) 森田峠の句「石炭の露頭芒を生ひしめず」—子供の頃は七夕や中秋の名月など親しむことの多い植物だった芒。一説に【スス(ス)クスクと真っすぐに育つ+キ(茎)】

石炭の露頭
芒を生ひしめず
峠

森田峠は大正十三年大阪に生まれる
高浜虚子・阿波野青畝に師事、俳誌
「つらぎ」主宰、俳人協会副会長
宝塚に住む。この句は昭和五十四年
江汐公園における属目吟。当地の
石炭産出の名残をとどめる句

建立年月日 平成元年九月
建立者 小野田かつらぎ句会

という。古来、高い繁殖力と生命力で、長寿を表す秋の七草でもある。炭鉱が閉じて久しい。戦中は国家の生命線、戦後は膨大なエネルギー消費社会の幕開けを支えた。この句が詠まれた時、すでにこの地の石炭産業は終焉を迎え「兵どもの夢の跡」と化していた。「石炭層の痕跡」が失われるのを護るかの如く、露頭は芒の侵出に対峙している。

強いインパクトを受け、回顧に傾斜することなく、彼の心はこの一点に焦点を結んだ。客観を貫いた確固たる描写となった。「芒を生いしめず」—まるで〈掟を布告〉するような、朗々たる威厳ではないか。そこに彼の密やかな畏怖の念と一つの時代への挽歌を感じ取るのである。



豊の田の
下に坑道
ありと言う
西村草生
西村草生は昭和三年
小野田に生まれる。
阿波野青畝・森田峠に師
事。俳人協会山口県副支
部長・全国かつらぎ同人
会理事・中四国かつらぎ
同人会会長歴任
句は昭和六十年高千帆区
における吟行句。

〈句の解釈・所感〉(2)(豊かに稔った田んぼの下に 炭鉱の坑道が 今もあるってさ。)
「へえー、見たいよ、僕。私も！」—子供たちなら、こんな楽しい反応が返って来そうだ。

「昭和 60 年吟行」とある。広々と田圃がひろがる江汐公園方向にかけて炭鉱の有無を調べる。公園の案内板に「石炭採掘による地下鉱物の流入により、水は青く澄み、神秘的な湖水に変わり魚類は姿を消した。炭鉱閉山(昭和 38 年)後は水質も変わり、現在では鯉や鮒などが生息するようになった。」とあるが、本山地区と今の若山ゴルフクラブ以外は地図上に炭鉱跡はない。この「昭和 38 年」は、小野田の本山炭鉱が 22 年間の稼働を止め閉鎖した年でもある。高千帆地区は住宅街となり、田園風景は高速道の北が美しい。やはり江汐近くで詠んだ可能性が高い。1987 年、縁あって私は当地に赴任した。ある日、大学に近い《焼野海岸》で岩場に貼りついた海藻を採取する 70 近い女性が、「昔この辺は地べたに石炭が転がっちゃってね。毎日拾って帰ってご飯を炊いちよった。」と話しかけてきた。徒歩数分の岬寄りの公園に《旧斜坑坑口》がある。沖合まで 3km の坑道が続いていたと云う。総延長 19km、最深部で約 200m の《海底炭田》があったのだ。

立ち話から 30 年の歳月が流れて、この句に出会うことになった。《豊の田の下に坑道ありという》—地上では豊かに広がる稔の秋、その下に炭鉱の坑道が眠っているという。奥行と広がり響き/O/、[TO/YO/NO/TA/NO]「黄金の波の」と続くかに見える流麗な《枕詞効果》、再び/KŌ/DŌ/—豊かで古代的な土のイメージが、[炭鉱の繁栄と悲劇性]の全てを包んで時を超えて行く。市の歴史に想いを馳せる人々をさらに後代へと繋いで行くに違いない。(きつたか えいいち／日本英語表現学会評議員)

厚狭地区の句碑をめぐって

本市は平成十七年の合併以前は、小野田市と山陽町に分れており、俳句活動も別々の流れの中で、互いに積極的な交流は乏しかったようだ。両地区にはいくつかの句碑が建立されており、句碑の一覧は山陽小野田市立図書館のホームページに掲載させていただいた。ここでは、厚狭地区に残る句碑を列記してみたい。

【厚狭地区】

場 所	俳 句	作 者	建 立 年 月
松獄山・正法寺	護摩焚きの鼓のやみしときほととぎす	松岡伊佐緒	昭和五十四年
物見山総合公園菖蒲園	花菖蒲鬱気に触れて開きゐし	〃	昭和六十一年
物見山	ふる里の山河親しも初景色	重村蒼生	昭和六十一年
寝太郎権現	田の神は寝太郎権現農始	〃	平成八年
鴨神社	氏神へ奉納角力子供の日	〃	平成十一年
厚狭天神	根を張りて宮を護れり松の花	〃	平成十二年
厚狭天神	川上とこの川しもや月の友	松尾芭蕉	明治二十六年

厚狭地区に二つの碑の残る松岡伊佐緒氏は、戦時中に高浜虚子の直接の指導を受け、「ホトトギス」同人となり、後に県ホトトギス会長となった県俳句界の重鎮であった。氏は下関在住であったが、後進の育成に力を注ぎ、山陽町では山陽俳句会を、亡くなる昭和六十年まで長く指導した。

また、町内の随所に句碑の残る重村蒼生氏は地元企業内での文化活動の高まりの中から句会を立ち上げ、広く郷土の文化振興のために力を尽くした。昭和十六年には自宅を開放して「厚狭土筆句会」を創設し、昭和四十九年には町立厚狭図書館に「ときわ句会」を開設して、平成十三年九十一歳で亡くなるまで、地元への句指導に献身した。

明治年間には、主として神社を中心に芭蕉の句碑がいくつか建立されている。当時は俳句と言えば俳聖芭蕉に対する畏敬の念が強かったのだろう。特に厚狭天神の碑の裏面には、芭蕉没後二百年を記念する意の一行が辛うじて読み取れる。

このように碑めぐりをしてみると、すでに時の経過とともに碑面が磨耗して読み取りが難しいもの、草木が茂ってその中に隠れているものなどあるが、それらを探せば巡らす思いも深くなり、散歩としても自然の楽しみ方が違ってくるように思われる。

（文／写真：山本桂子）



▲重村蒼生の句碑

厚狭自然菓子

「トロアメゾン」を訪ねて

物見山総合公園の近くにある有名な洋菓子店「トロアメゾン」を訪ね、
代表取締役社長の水上隆男氏にお話をおうかがいしました。



▲ 代表取締役社長
水上隆男氏

営業時間/10:00～19:00
定休日/火曜日
TEL/0836-73-2034

Q. 「トロアメゾン」は、どういった経緯で 始められたのでしょうか？

もともと菓子屋であり、父親の代から受け継ぎました。現在、私は2代目となります。

Q. 「トロアメゾン」という名前の由来は？

三ツ屋(小野田)という意味。「トロアメゾン」とは「三つの家」ということです。私の父母が「見つや」という和菓子のお店をやっていました。

Q. 海外は好きですか？

ヨーロッパが大好きです。洋菓子店が多いから。特に、スペインがいいですね。感性を揺さぶられます。



▲ 店内のようす

Q. ご自身のことについて

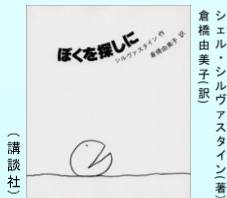
お菓子づくりは、ここにしかないものを作っています。去年と同じものは作らないようにしています。また、楽しみながらお菓子を作ることを心がけています。自分が楽しみながら作らないと良い仕事ができないですからね。毎朝4時ぐらいに起きていて、休みがほとんどないです。

Q. このまちの印象は？

山陽小野田に住んでいてよかったです。なぜなら、自然が豊かで交通の便がいいからです。東海道、山陽・九州新幹線、高速道路(山陽道・中国道)、飛行機(山口宇部空港)が使えるから行こうと思えば、日本全国に行くことができます。山陽小野田にこのお店があることで、市外や県外からも来てほしいですね。

Q. 本や読書のこと…

子どもの頃からよく本を読んでいました。最近気に入っている本は、『ぼくを探しに』という絵本です。



絵本が大好きで、一方で古典も好きです。例えば、源氏物語。社会人にすすめたい本は「松下幸之助」関連の本ですね。経営と生き方に関する本も読んでいます。また、新しいモノ好きなのでそれを仕事に取り込むため、図書館はよく利用しています。新聞などのメディアで気になったことを図書館で探しています。いわゆる引っかけたキーワードを探す旅です。

ありがとうございました。

(インタビュー: 網都堀 広美)



詩を共有するひとときを・・・

「詩(ポエム)カフェ」

ひと月に一度、中央図書館で「詩(ぼえむ)カフェ」が開かれています。時間は2時間。10代から80代までの男女が自作の詩を、または好きな詩人の詩を声に出して読み、その詩について自由に語り合います。



年齢層も幅広く、遠方から 多くの参加者

参加者はおおよそ10名くらい、古参の方もあれば、新しい方もいらっしゃいます。詩を読み上げたあと、詩編にそれぞれ、ご自分の来し方や経験を重ねるようにして、お話をされます。盲目の方が来られたこともあります。海外に住む幼いお孫さんの詩を披露された方もいます。俳句や短歌を読まれる方もいます。また、柳井市から2時間もかけて参加される青年も。この青年は、ギターで詩に曲をつけて、参加者の前で一度ならずご披露くださいました。

帰り際車の窓開け

じゃあまたね

だいたい毎回エンジン

入ってからが長い

ちゅうてからちゅうてからええよ

「ちゅうてからええよ」 中西 祐介



詩ははじめてで、詠んだことがないという方もいれば、歴史ある詩の結社に籍を置き、長い詩歴を持たれた方もおられます。

私は自分の中に

もうひとつのトマトを見ていたのかもしれない

薄い膜に辛うじて包まれていて

針を刺せば 音を立ててはじけそうなそれを

「トマト」 森本 眞智子



ほたるかご

たくさんならぶよ

るいるいと

かがやくあかり

ごらんあれ

「ほたるかご」 嶋崎 利花

一編の詩をシェアする時間は、日常には在りがたい、楽しくてとくべつな時間です。笑いとか揚感に満ちあふれています。みなさん、見学だけでも「詩(ポエム)カフェ」を覗いてみられませんか？

(文:香川 真澄)

詩の好きな人あつまれ! 『詩(ポエム)カフェ』

ー あなたも、自分の好きな詩、短歌・俳句を紹介しあいませんか? ー

日時/毎月1回日曜日 午前10:00～ ※曜日は変更する場合があります

会場/山陽小野田市立中央図書館 2F和室

対象/中学生～大人まで

持ってくるもの/自分の好きな詩、又は自作の詩や俳句などを持ってくる。

お問合せ/山陽小野田市立中央図書館 TEL:0836-83-2870



紙面で紹介した箇所

▼『自然の宝庫!竜王山たんけんツアー』
(2017.7.26)でのピオトープの様子



地図イラスト: 西澤 佑

【図書館創発会議メンバー募集中!】

創発とは、様々な人々が集い、アイデアを出し合いながら、未知の新しさを創り出すこと。

図書館という場を活用して 新しい「何か」を創っていきませんか?

メンバー(企画員)は随時募集、「とっとこ山陽小野田」取材スタッフも募集中!

《現在活動中のもの》

1. 『持ち寄り本カフェ』——毎月1回開催
2. 『本で婚活、GO!』——毎年2月頃開催
3. 『としよかんマルシェ』『チャリティー・オークション』開催
4. 地域情報誌『とっとこ山陽小野田』発行

【お問合先】 山陽小野田市立中央図書館 TEL/0836-83-2870

地域情報誌 創刊0号 「とっとこ山陽小野田」

【編集・発行】 図書館創発会議
(山陽小野田市立中央図書館内)

【発行年月日】 2017年11月20日

【取材・執筆】 香川真澄、橘高榮一、田中信、まっし、
網都堀洋美、山本桂子、山本安彦

【編集・協力】 倉迫一男、嶋崎利花、橘高榮一、
高山麗子、西村美弥子

【表紙写真】 撮影/友田恭太、モデル/万木麻莉